

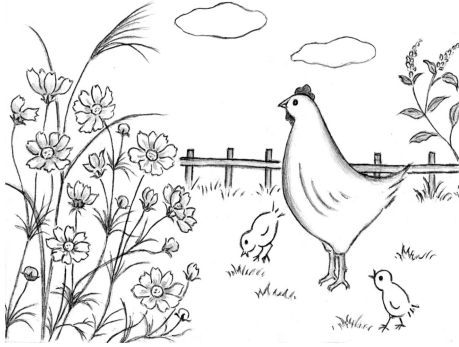
●三位一体後第十四主日

泉のほとり

今月の詩編「第三十五編」

わたしの魂は主によつて喜び躍り

御救いを喜び樂しみます。



神に従わなければなりません

使徒たちは民衆に主イエスのことを証し、福音宣教をなしていました。その働きは平坦ではなく、とりわけ、かつて主を十字架へと追いやつた指導者からの反発、迫害がありました。彼らは使徒たちを捕え、「あの男の血を流した責任を我々に負わせようとしている」と問い詰めるのです。しかし使徒たちは「人に従うよりも、神に従う」と答え、「あなたがたがイエスを十字架につけた」と真実を、真つ直ぐに語りました。彼らは怒り狂い、使徒たちを殺そうと考えたのです。

その時、律法の教師ガマリエルが、「あの者たちの行動や計画が人から出たものなら自滅する。神から出たものなら滅ぼすことはできない。あなたがたは神に逆らうものとなつてしまう。手を引きなさい」と忠告しました。彼が前例として挙げたのは、自分を偉いものだと主張し、反乱を起こし、高ぶっていた人たちのことです。高ぶりは、神が忌み嫌われるもの。神から出たものではなく、人から出たものです。彼らの計画、行動は全て頓挫し、滅びてしまつたのです。一方、神の御心、ご計画は決して滅ぼすことはできません。

ところが、指導者たちは殺害を取り止め、釈放はするものの、気が済まず、使徒たちを鞭で打つた上に、「イエスの名によつて語つてはならない」と命じます。真理、真実の言葉に聞き従うよりも、怒り、妬みに従つて振る舞うのです。彼らの中に、神への恐れを抱いて、わたしは神に敵対する側にいるかもしれないとかえりみる人はいませんでした。自分から明らかに悪しき思いとわざ、人から出たものが表れているのに、わたしは神から出たものではなく、人から出たものだと胸を打つ人はいませんでした。彼らが神の前で

自らを悔い改めることがなければ、彼らも滅びてしまうのです。

使徒たちは、殺意を持った人から鞭打たれていました。どれほどの苦しみだったのか、想像もできません。人はやられたら、やり返したいという思い、怒り、恨みを抱くと思います。しかし使徒たちは喜びで満ち溢れているのです。不当に逮捕や非難されても、その身に暴力さえ受けても、怒り、恨みなど悪しき心を全く抱いていない様子です。

更に、この後もなお、命の危険さえあるエルサレムでイエス・キリストを証し、福音を宣べ伝えていくのです。かつては主イエスが指導者に捕えられたとき、自分たちも捕えられることを恐れて、主を見捨てて、一人残らず逃げてしまつた使徒たちです。今や自分の身体以上に、主が十字架をもつて与えてくださった福音の言葉を愛し、愛のわざをなしていくださつた主を愛して歩んでいきます。最後まで、悪しき人々に聞き従うのではなく、神さま、主イエスに従つて、真つ直ぐに歩んでいきます。彼らこそ、人から出たものではなく、神、キリストから出たものたちです。

人から出たものがあります。高ぶり、怒り、妬みなどの悪しき心です。それは神に喜ばれるものではありません。神から出たものがあります。神に従順で、真実を愛し、喜ぶ心、真つ直ぐに生きる心です。わたしたちは、自分からは日々、人からのものか、神からのものか、どちらのものが表れているのかとかえり見ていきたいと思ひます。神、キリストから出るものを愛し、神から出るものが、わたしにも豊かに授けられるようにと願ひ求めていきたいと思ひます。

2024年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

《今日のお知らせ》

○ 礼拝後、地下ホールで讚美集会と信仰者たちに学ぶ会を行います。讚美歌をお持ちの上、ご参加ください。

○ 運営委員会、各小委員会がそれぞれ開かれます。

○ 毎年九月に、説教塾のための献金をお願いしています。地方の小さな教会の牧師たちが説教の学びを続けられるように、これまでも多くの方が献金をしてくださいました。事務所のカウンターに袋が置いてあります。今年から長四形の少し小さな封筒にしました。献金は事務所にお預けください。(吉村)

《ぶどうの会より》

学び会があるため、ぶどうの会は休会です。

《教育奉仕委員会より》

《九月交わりの会についてのお知らせ》

・ 九月八日:み言葉の分かち合い

・ 九月二十九日:企画中

《ミニバザー有志より》

献品をご検討くださっている方々にお願いです。いくつか、お約束ごとがありますので、詳しくは掲示板をご覧ください。よろしくお願いいたします。

《今後の予定》

○ 九月八日 交わりの会(教育奉仕委員会担当)

○ 九月一五日 定例役員会

《ジュネーブ教会信仰問答》

第十二聖日前半

使徒信条「天に昇られ」に関して

問七五 先へ進みましょう。

答 彼は天に昇りたまえり。

問七六 天にお昇りになって、もはや地上にはいらつしやらないのですか。

答 はい。なぜならば、み父より彼に命ぜられていたこと、そしてわれわれの救いに必要なことは、ことごとく果たされましたので、もはやこの世に住んでいる必要がなかつたのであります。

問七七 この昇天はわれわれにとつて、どんな益がありますか。

答 二重の益があります。すなわち、イエス・キリストはわれわれのために天よりお降りになつたように、われわれの代理として天に入られたので、われわれのために天に入口が与えられたのであり、われわれの罪のゆえに閉ざされていた扉が、今やわれわれのために開かれてい

ることを保証してくださいからであります。次に、彼はかしこで、神のみ顔の前にて、われわれの仲裁者または弁護人となつてくださるのであります。

問七八 しかしいエス・キリストは、天に昇られることによつて、世から離れ去り、もはやわれわれとともに、いらつしやらないのですか。

答 いいえ。なぜならば、彼はその反対のことを申されましたから。すなわち、世の終りまでわれわれの側近くいると。

外山八郎訳（新教出版社1979年）使用



《今日の子ども礼拝》

説教 「主があなたがたのために」

聖書 出エジプト14章5〜14節

説教者 吉村和雄名誉牧師

《次週の礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「荒野でのイスラエル」

聖書 出エジプト16章1〜5節

説教者 宮間彰広兄

●主日礼拝（午前10時30分）

讃美歌 87A番 377番

説教 「世があなたがたを憎むなら」

聖書 ヨハネ15章18〜27節

説教者 黄允湜牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 22番 495番
説教 「わたしの友とは」
聖書 ヨハネ15章1節～17節(新約 P.198)
司式 山下 純一 兄
聖餐司式 黄 允湜 牧師
説教者 黄 允湜 牧師

前奏曲「我、神より離れじ」 J.S.バッハ

○讃美歌22番

1. めさめよ、わがたま あさ日にともない

あしたのほめうた みまえにささげよ

2. むなしくすごしし ときをばつぐのい

ちからのかぎりに みわざをつとめよ

3. うえよりたまわる たからをもちいて

おわりのさばきにかしこみそなえよ

4. かくるものをも 主は知りたまえば

ことばとおもいを ひたすらきよめよ

5. めさめよ、わがたま この日もひねもす

みくにをのぞみて いそしみはげめや

アーメン

○聖歌隊による讃美

「主の心を」 P.リゾエストランド 曲

主の心を 己が心とせよ

主は神の形であられたが

神と等しくあろうとされず

己を空しくなし 僕の形をとりて

人の如くなれり

己を低くにして

十字架の死に至るまで従われた

神は彼を引き上げ

すべてに優る名を給えり

そはみ名により

天と地と 地の下のものすべて

膝かがめ

舌もて イエスこそは主と述べ

神の栄光 讃えるため

主のみ心 我が内に住み給え

心と行い 導きて

海に満ちる水のごと

主の愛 我に豊かに 満ち給え

主のみを見上げて 進ませ給え

勝利の望みは主にあり

アーメン

○讃美歌495番

1. イエスよ、この身を ゆかせたまえ

愛のしたたる 十字架をさして

※(くりかえし)

我はほこらん ただ十字架を

天つ いこいに入るときまで

2. 十字架にすぎる よわきわれは

今ぞ知りぬる ふかきめぐみ ※

3. 十字架のうえに よろこびあり

たえず御蔭に よらせたまえ ※

4. かがやく国に のぼる日まで

十字架のもとに 立ちてぞ待たん ※

アーメン

聖餐曲「イエス、わが信頼」 J.G.ガアルター

後奏曲「バッハの名によるフーガ」 G.メルケル

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。